

何を感意あゝさゝんや敬を（まを敬を）
——て敬を由——きを敬を、い、海祠に海祠ハ
福を——と敬をより出——り、秋多をより
て大災を消滅さるの乃理あゝ、法澤の地
を見立一祠より多りて敬を（まを敬を）何こ
とに祠を建て送葬の職そ外のお澤に福
を、事敬の法より何とむりする大邑一
是を改る人などい、敬を敬を

一富士権現

多神本花咲那姫命なり、社地より海濱と云ふ
と云ふ

砂山のよあり——と羽津記に見え、より慶
長年中社地より合戦を——事あれを、火
の為小焼れり、や、神祇今酒田山麓岩寺
の仏壇より安ん、災難なり、と云、このより
大祇宮稲荷社半段、天王ホあれ、持て坐、
もなければ、略之、去年より稲荷小坂、稲荷
社より郡中（正一位稲荷、字別、南、蓮昌院と
書付、これを出、朝家より宣旨ありし
事をとり、何人の所より、敬を、地より